

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600205		
法人名	社会福祉法人 幕別真幸協会		
事業所名	グループホーム くつろぎの家		
所在地	帯広市西1条南28丁目4番地1		
自己評価作成日	平成 28 年12月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0174600205-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で一人ひとりに寄り添い安心した生活が送れるように支援しています。また、出来る事はご本人にして頂き、ご本人に合わせた軽作業、洗濯物干し、食事の準備等に積極的に取り組んでいます。また、地域交流にも積極的に参加しています。保育所、町内会、昨年より新しく取り入れた地域サロンにも毎月参加し地域の方々との交流を深めています。外出行事では、外食、ドライブ、動物園、喫茶店、温泉等取り入れ多くの方々との触れ合い五感を活用してもらえるよう努めています。出来る限り、全員で楽しめる外出行事を工夫して取り入れています。近年、天災が増えてきており防災の他に災害の避難訓練も積極的に実施し迅速かつ的確な行動がとれるように努めています。また、スタッフの外部研修にも力を入れ、感染研修、看取り研修等参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

帯広市の都心部に近い住宅地にあり、付近には商業施設、公園があり自然環境・生活と交通の便に恵まれている。母体法人は、介護保険関連の福祉施設を多数運営し蓄積されたノウハウを活かし、質の高いケアに努めている。又、管理者は職員の資質向上と事故防止に常に心がけ、外部研修等に積極的に参加させたり、毎月全事業所職員による合同勉強会を実施して温かみのある家庭的な雰囲気作りが心がけ、事業所独自の理念「一人ひとりに寄り添い地域と共に安心して暮らせる家づくり」を目指し、町内会行事への参加、喫茶店訪問や地域サロンへの参加を通じて地域との交流を深めている。また、保育所の運動会や学習発表会に参加し園児と交流したり、事業所行事「夏祭り」に家族、地域住民、ボランティアが参加して交流している。職員は利用者一人ひとりに寄り添い「その人らしさ」を大切に生活が出来るよう支援し、利用者は洗濯物干しや食事の盛り付け・配膳など日常の出来る事を手伝い穩かにゆったりと過ごしている。災害対策として、従来の防災訓練の他に水害を想定した避難訓練を実施したり、利用者家族との交流にも力を入れ、利用者は地域の人々や家族に見守られ、地域と共に安心して笑顔で暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせて いる (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、 安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は、職員一人ひとりが自覚し理解出来るようにスタッフルームに掲示している。また、スタッフ会議時に唱和している。	地域密着を基本にした事業所独自の理念を作成し、スタッフルームに掲げて毎日ミーティング時に唱和している。職員は理念を共有し日々のケアに活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年も町内会に参加し、新年会、親睦会、保育所の運動会等に参加している。また、今年はご近所に昔からある喫茶店にも訪問した。	町内会へ加入し、町内会行事への参加や喫茶店訪問、地域サロン等地域住民との交流や保育所の運動会や学習発表会へ参加し園児との交流を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年より新しい試みとして地域サロンに参加して地域の皆様と一緒におしゃべりをしたり体操、折り紙等して交流を図った。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開き実施している。利用者、ご家族、町内会長、地域包括センター、地域の方に参加して頂き現状報告を実施した。	年間6回開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、地域住民、利用者、家族などが参加し、事業報告や災害訓練など、活発な意見が出され、運営に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員担当者とは必要時、疑問時に連絡を取り合った。メール便も送信され毎日チェックを入れている。	帯広市の担当者とは必要に応じて常に電話・メールにて意思の疎通を図りケアの向上に反映し、日頃から協力関係を深めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	くつろぎは、施錠はせず玄関は開放している。利用者が外に出た時も静止せず、後ろからそっと見守りをしている。身体拘束をしている方は一人もおらず、研修にも参加している。必要な内容は、スタッフ会議時に情報を共有している。	職員は、身体拘束が異常であるという事を理解している。母体法人の研修会に必ず参加し、更にそれを事業所内で伝達報告をしている。徘徊がある時はそっと寄り添い、見守り支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者はじめスタッフ一人ひとりが声掛けに配慮している。社内研修でも虐待についてグループワークを持ち各部署で情報共有し向上を図った。			

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の対象者は入居されていないが、核家族化や、近くに身内が居ない入居希望者も増えてきており必要とされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の時には利用者やご家族の疑問や不安を無くす為、本体の職員も必ず同席し、しっかりと理解し納得していただける様、十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の生活の状況、通院の結果報告、その他調整事項は手紙や電話連絡、ご家族が面会に来られた時に報告している。	日常の会話などから利用者の要望などを把握し、日頃から事業所と家族との連携が良いので、家族の意見が汲み取れている。通院時の医師からの伝言もその都度伝えている。家族の来訪時や手紙により日頃の様子をきめ細かく伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるスタッフ会議では、入居者の担当職員が生活状況や問題点等を発表し、それに対する意見を職員それぞれの視点から発言し提案出来るように促している。	管理者と職員は話やすい雰囲気、その都度改善提案している。職員の提案は毎月の会議で取り上げられ運営に反映させている。毎年、理事長または施設長による面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、理事長または施設長が職員個人との面談を行い、職員の思いや意見を汲み取り、職場環境の改善に反映できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを図る為に、研修委員会や各委員会が開催する施設内研修や、地域で実施される外部研修に積極的に参加し、学んだ事を施設内研修で他の職員にフィードバック出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他の事業所職員と情報交換や交流できる場に参加し、気付いた事や改善点等サービスの質の向上に努めている。		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはグループホーム内を見学していただく事を薦め、入居される方やご家族の不安や疑問の緩和に配慮している。その際にご本人やご家族から、生活状況などを聞き取り、新生活の支援に向けたニーズの把握を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員から声を掛け、不安なことや要望などがなければご家族とお話しさせていただいている。ご家族との信頼関係を築けるよう、気軽に話せる雰囲気づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向をお聞きし、希望されるサービスの実施に向け、各機関と連携しながらニーズの実践に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を常に尊重し、利用者の持つパーソナリティを活かしながら職員が支援し、自宅での生活に少しでも近づけるように日常生活を支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会や利用者の誕生会など、ご家族に呼びかけ参加を促し、利用者のご家族の関わりが途切れる事がないように配慮している。また毎月の手紙や面会時、電話等で利用者の生活状態を報告し情報共有することで利用者のご家族の絆の保持を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	NPOサロンなど地域の方々が集まる会に参加し馴染みの方々と交流したり、利用者の住んでいた近くを散歩やドライブして利用者の馴染みの場の関係を維持できるよう支援している。	サロンで馴染が出来、昔の話に共通点を見つけ話が弾んだり、家族から利用者の昔のアルバムを用意してもらい職員は何度でも話を聞き昔の思い出や馴染みの関係が維持できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り関わりながら、利用者同士で談笑したり、レクリエーションを通じて、利用者間の関わり合いができ、お互いの人間関係が深まるよう配慮し支援している。		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所にいたるまでの相談はもちろんだが、退所された利用者様の思い出をアルバムにして渡して喜ばれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やケアプラン変更時にご本人、ご家族に希望を伺いそれに沿えるケアプラン作成に努めている	利用者の思いや暮らし方の希望を日々の会話や家族の情報から把握し、帰宅願望のある人にはその実現に向けて家族と相談するなど、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やケアマネ、施設の方から情報を頂き、好みの食べ物や趣味等を把握し安心できる環境を作るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力に応じて軽作業(盛り付けや配膳等)をお願いしている。状況に応じて付添介助して軽作業をお願いすることもある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度スタッフ間でケア会議を行い、課題やケア方法を共有し、家族にケア方針をお伝えしている。	利用者や家族の希望を反映させ、3ヶ月に一度、定期的な見直しをしている。利用者の体調変化時にはその都度医師の指示に基づいてケアプランを見直し、家族の同意を得て現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活は生活記録に、気づきやヒヤリハット等は別様式の用紙に記入し、スタッフ全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族とその都度相談し連絡を取り合いながら可能な限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流カフェに参加したり、ご近所の友人が気軽に訪問されたりしている。散歩中に知り合いの方が、声を掛けてくださったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様それぞれが入居前から受診している病院をかかりつけ医としている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう従来からの医師を大事にしている。通院には可能な限りスタッフが同行して利用者の日頃からの状態について医師に伝えている。又、医師からの指示は書面で家族へ伝えている。	

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H28年8月から、特養より看護加算を外すことになったが、利用者の状況について特養看護師と相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に訪問し、状況確認を密にしご家族、医師などと連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時の対応をご家族に説明し、同意を得ている。	契約時に利用者、家族に重度化や看取りの対応を説明し同意を得ている。母体法人施設へのバックアップ体制が充実している。早い段階で家族と話し合いを重ね医師や看護師、職員と協力体制を回り情報を共有できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアル作成、定期的な訓練を行い対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練計画を作成し実施している。また、夜間を想定した訓練を行っている。実際に避難指定場所までの所要時間や避難所の様子を確認している。	運営推進会議で提案された、従来からの防災訓練に更に水害避難訓練をシミュレーションして問題の把握ができた。状況により近所に住む大家の2階への避難も想定している。	400m離れた第4中学校への避難訓練実施により「隣接福祉施設への避難」が適切と感じた。避難先として当該法人との「避難受け入れ契約締結」実現が期待されるし望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を常に、目上の人であるという意識を持ち、不適切な言葉かけや態度にならないよう対応している。	スタッフは利用者を常に人生の先輩として敬い馴れ馴れしい態度、言葉、安易な丁寧語は慎んでいる。呼びかけにも名前の使用や苗字の使用等個別に工夫対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やレクリエーション等ご自分の好みに合わせて、参加できるように声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思や希望を優先できるように声掛けし、職員の方が利用者様に合わせるように柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や希望に合わせて染髪をしたり、利用者様の好みの衣類を一緒に買いに行くなどの支援を行っている		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じるができるようにメニューや配色などを工夫している。嚥下状態に合わせて刻みやミキサー食にするなどの対応をしている。また、利用者様にも配膳や盛り付け等を手伝ってもらっている	母体法人で毎月のメニューは作られるが食材購入や調理は事業所で行う。味見、配膳、片付け、洗い物等利用者が出来る事を職員と共にやっている。個別にキザミやとろみに工夫して嚥下障害に配慮してる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量等を個別に生活記録に記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。就寝時には義歯を預かり、洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を把握し、時間で声掛けするなどしてトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をしている。入所した時よりも布パンツへの改善事例が多い。トイレ誘導の失敗もあるが自然体で処理をしている。トイレ自立支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を心がけ、排便間隔や形状を記録し、その人の状態に応じて下剤や座薬を使用して排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴機会を保てるように支援している。気分が乗らない時は翌日に入浴していただいたり、声掛けを工夫し気持ちよく入浴できるようにしている。	入浴の日を固定しないで、週2回を実現させている。入浴時に唄を歌ったりゆったり湯船につかりながらの会話を大事にしてその時に得た情報をスタッフ同士共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず個人の習慣を尊重し、入眠を促している。また、夜間安眠できるように日中の活動量が増えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、個別ファイルに薬の内容表を保管している。状況に変化があれば、かかりつけ医に相談し服薬変更にも対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や趣味、楽しみを把握し、その方に合わせた行事や外出を提供している。		

グループホーム くつろぎの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内の散歩や買い物、ドライブなどを通して外出する機会の支援に努めている。特養のバスを借り、全員で池田までドライブするなど気分転換の機会を設けている。	町内の散歩を頻繁に行い、母体法人のバスで足湯や花見に出かけたり、ドライブして季節の変化を楽しんでいる。又、近所の保育所訪問、季節毎のまつりへ参加する等極めて多様に外出してリフレッシュの機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人自らの金銭管理が難しい為、施設で管理している。ご本人自ら支払できる方には職員付添の元支払をしていただき、買い物の楽しさや達成感を実感していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1度、写真付きのお手紙でご家族にご本人の様子をお伝えしている。ご本人が希望されるときにはいつでもご家族と連絡が取れるよう支援している。個人的に携帯電話を使われる利用者様もいらっしゃる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で季節や行事に合わせた飾り付けや行事やご家族との写真を貼り、楽しんで頂ける空間づくりを心がけている。また、皆様が心地よいような環境づくりを工夫している	居間中央に吹き抜けがあるので開放感があり明るい共用空間である。クリスマスや雑祭り等季節毎の飾り付けや行事の写真、家族との写真を壁に貼って季節感親近感に溢れ見て楽しい空間づくりを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様とのコミュニケーションの場や一人だけで過ごしたい時の落ち着く場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では利用者様が使用していた馴染みのものやソファ、テーブル等を置いたり、ご本人の個性に合わせて居心地良く過ごされるように工夫している。	家族の協力を得ながら自宅で使っていた使い慣れた整理タンス、佛具、小物を持ちこんでいる。家族の写真やぬいぐるみや趣味の作品を飾って居心地の良い空間になる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかるように張り紙を貼ったり、居室に名前やのれんを掛けたりとご本人がわかるように工夫している。また、個々の能力に応じて出来る事を続けられるように支援している。		